

ふるさと探訪

第70回 楠陵（くすおか）天満宮



西条・小松両地区の境界で国道11号を折れ、市道第2岡村線を山手に向かうと丘陵地に広がる田園風景の中に、「楠陵天満宮」があります。

真護地^{まごじ}という所在地名は、中世にこの辺りに満護寺という寺があったことに由来し、

「真護地天満宮」とも呼ばれました。

小松藩一社の天神として、三代藩主の一柳直卿公が京都の北野天満宮を勧請したのが始まりで、主祭神は学問の神として有名な菅原道真公。近藤篤山先生も門弟とともに、しばしば参拝したそうです。

階段を上がって鳥居をくぐるとすぐ本殿があり、屋根瓦には神紋の梅鉢が見られます。また、境内からの道前平野の眺望は素晴らしく、天気良ければ遠くに来島海峡大橋を望むこともできます。

神社の裏にある農業用のため池は静かに水をたたえ、こ



▲道前平野の向こうに見える来島海峡大橋



◀梅鉢紋が施された屋根瓦

れからの季節には穏やかな日差しと野鳥のさえずりが訪れる人を優しく迎えてくれます。

所在地 小松町新屋敷字真護地乙1-2



鳥居の内側には凜とした空気が漂っています

